

No.6	提 案 名：まちなか健康プロジェクト	
	提案団体名：建築環境研究室	
	所 属：宇都宮大学大学院・地域創生科学研究科・社会デザイン科学専攻・建築学プログラム 宇都宮大学・地域デザイン科学部・建築都市デザイン学科	
	代 表 者：松井瑞樹	指導教員：藤原紀沙
メンバー	柏倉遥 本多拓斗 松井瑞樹 飯岡哲 荻澤祐理 三森美咲	

○ 提案の要旨

本提案は、宇都宮市の中心市街地を健康づくりの拠点として位置づけ、15年後の将来像を想定する。宇都宮の多彩な地域資源であるスポーツ、農業、環境などを最大限に活用し、新たな拠点施設とまち歩きルートの設定を通じて、楽しく健康になれるまちづくりを提案し、中心市街地を魅力的かつ楽しい場所に変え、活性化させることを目指す。

1. 提案の背景・目的

近年、多くの都市でまちなかの賑わいを創出することが求められている。宇都宮市も、中心市街地の活性化を目指して第三期中心市街地活性化基本計画の策定を行い、プレイスメイキングうつつのみや*1 など様々な取り組みが進められている。これらの取り組みが浸透していることから、まちなかに訪れる目的となる拠点やアクティビティを創出し、進行中の様々なプロジェクトを統合してつなげるにより、全体として活性化が期待できると考える。

本提案では、宇都宮市まちづくりの方向性を踏まえながら、宇都宮の地域資源を活用し、“健康づくり”を切り口として15年後のまちなかの未来を構想する。新しい拠点施設の提案や、広場や公園をめぐるまち歩きルートの設定を通じて、まちなかをつなげ、人々が日常的に行き交い、歩いて楽しいまちづくりを実現し、中心市街地の活性化を促進することを目的とする。

2. 提案の目標・課題「私たちがつくる「アスノミヤ」～スーパースマートシティの実現に向けて～」との関連

スーパースマートシティの実現に向け、中心市街地の広場、空き地、道路空間の活用を具体的に検討し、楽しさにあふれる空間やアクティビティを提案する。これにより、宇都宮市民にアスノミヤの未来像を具体的に想像してもらい、その実現に向けた道筋を示すことを目指す。

3. 現状分析

3.1 宇都宮市中心市街地

(1) 中心市街地のオープンスペース

中心市街地には、公園や広場をはじめとするオープンスペースが多く立地している（図1）。宇都宮市中心市街地において、まちなかの資源を活用しながら、プレイスメイキングにより居心地よい空間を創出していくプロジェクトであるプレイスメイキングうつつのみやでは、居心地よく歩きたくなるような空間形成に着目し、中心市街地の再生に取り組んでいる。プレイスメイキングうつつのみやにおいて、今後の取り組みについてまとめたプレイス・ビジョン うつつのみや¹⁾の資料

より、先行的に活動を行うプレイスとして東武馬車道通り・バンパ広場・オリオンスクエア・釜川ふれあい広場・まちかど広場・中央児童公園の6つのプレイスを選定している。

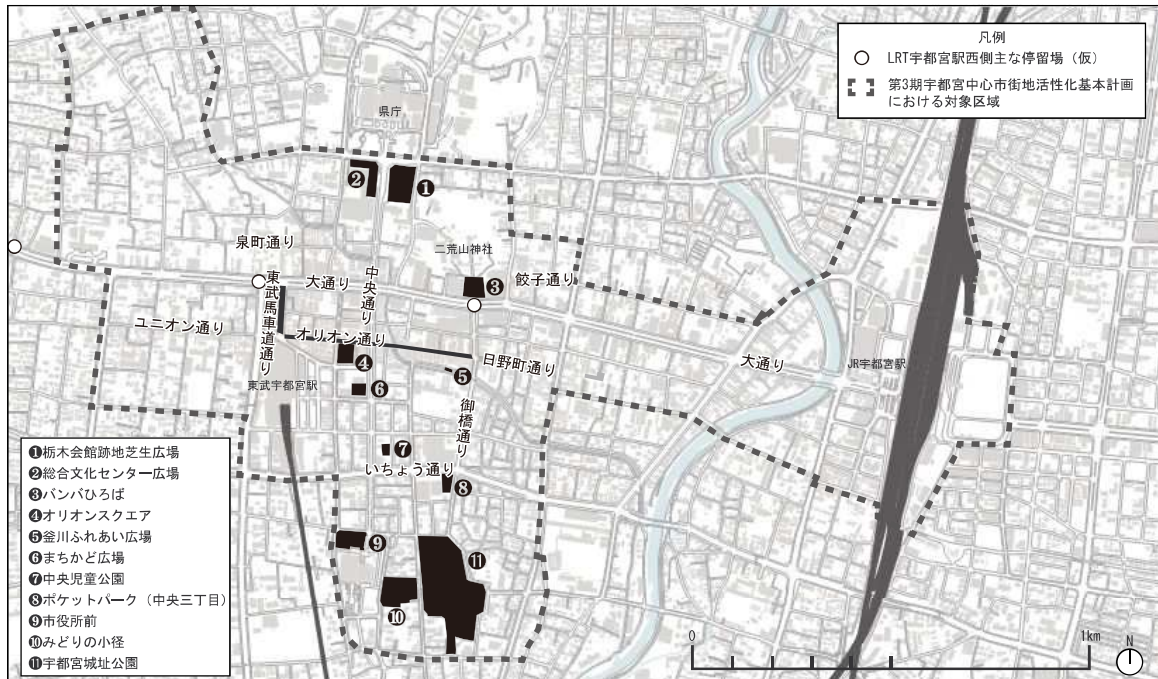


図1 中心市街地のオープンスペース

また、まちなかの主な取り組みについて一覧を表1に示す。表1はプレイス・ビジョン うつのみやをもとに作成している。現在、宇都宮市の中心市街地では、様々な取り組みが行われている。具体的には、道路占有許可の特例を利用し、賑わい創出するオープンカフェを行っている「オリオン通り」、街なかに流れる水辺空間である釜川沿いを利用して憩いの場を創出する取り組み「KAMAGAWA YARD」、官民連携により釜川エリアのビジョンづくりや取り組みを行う「カマクリプロジェクト」、LRTと東武鉄道の交通結節点となる東武馬車道通りにおける居心地の良い空間を実験的に創出する「BASHAMICHI YARD」などの取り組みが行われている。

表1 まちなかの主な取り組み一覧

名称	場所	概要
宇都宮まちなかオープンカフェ	オリオン通り商店街	オリオン通り商店街では、平成29年度から道路占有許可の特例を活用し、オープンカフェ事業を実施。
KAMAGAWA YARD	釜川	歩いて楽しめる賑わいのあるエリアの創出を図るため、釜川の河川敷地である釜川ふれあい広場で実施された社会実験。
カマクリプロジェクト	釜川	釜川周辺を対象に、点地区物のリノベーションや釜川の生き物調査など釜川の魅力づくりに関連する取り組みを行っている。
BASHAMICHI YARD	東武馬車道通り	道路空間を活用した居心地の良い空間づくりに向けた社会実験であり、滞在スペースの設置や商店街によるテイクアウトメニュー企画などが実施された。

宇都宮市において、多くのプレイヤーが参画し、実践的なプロジェクトが展開されるとともに、プレイスメイキングうつのみやの取り組みが浸透している。この状況から、居心地の良い環境づくりに加え、訪れる人々に特別な体験を提供できる施設が重要であると考え。そして、都市部まちづくりビジョン²⁾で強調されるように、多様な主体が連携して賑わいを生み出すアプローチを推進し、異なるプロジェクトを結びつけ、市街地全体を活性化させる役割を果たすことで、全体としての活性化が期待できると考える。

(2) 中心市街地の低・未利用地

次に、中心市街地の低・未利用地の分布を図2に示す。図2はプレイス・ビジョン うつのみや

をもとに作成した。

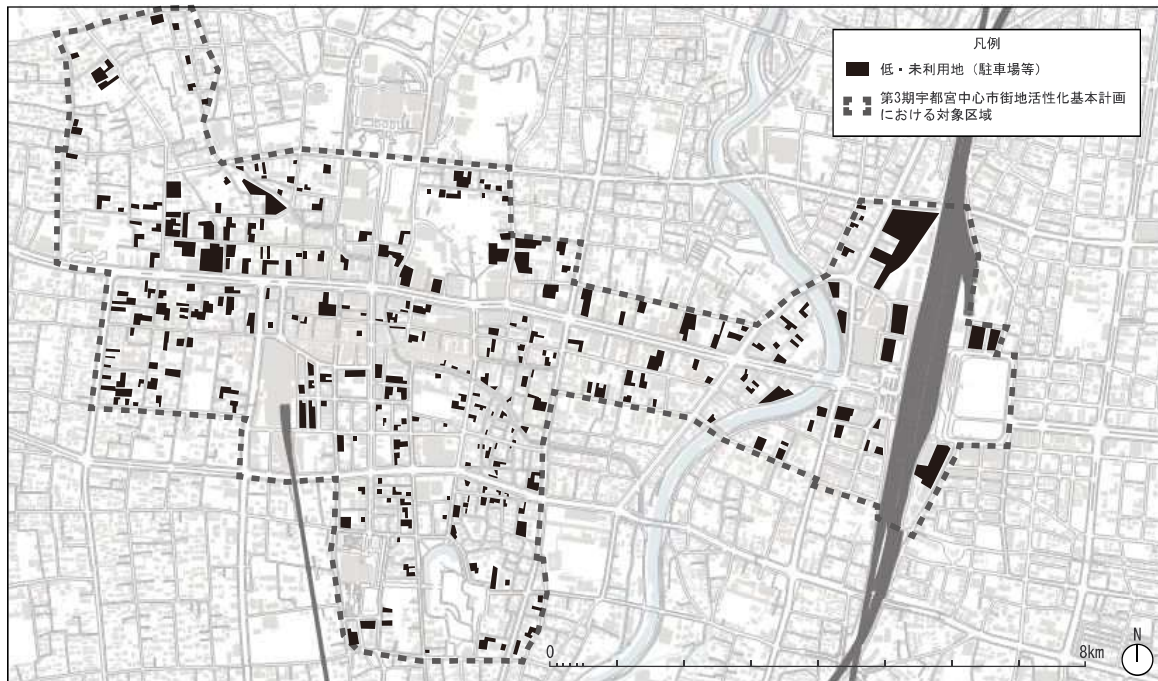


図2 中心市街地の低・未利用地（駐車場等）の分布

宇都宮市中心市街地では、コインパーキング等の低・未利用地が虫食い状に分布、増加し、街の連続性や賑わい創出に影響を与えているため、このような低・未利用地を活用した魅力の創出が必要であると考える。

3.2 宇都宮市スポーツによるまちづくり

宇都宮市では、スポーツを都市の魅力づくりに向けた地域資源ととらえ、ホームタウンプロスポーツクラブとの協働によるまちづくりに取り組んでいる。また、「3×3」や「ジャパンカップサイクルードレース」などの国際的スポーツイベントと連携したまちなかの賑わい創出を行っている(図3)。宇都宮市をホームタウンとして活動している3つのプロスポーツチーム(栃木 SC, リンク栃木ブレイクス, 宇都宮ブリッツェン)がある(表2)。3チームは地域に根差した活動を通じて、人々に夢や感動を与えるとともに、地域の活性化に効果をもたらしている。



FIBA 3×3 World Tour utunomiya Opener
(宇都宮二荒山神社参道及びバンパ広場)



ジャパンカップクリテリウムコース
(宇都宮市大通り)

図3 まちなかの国際スポーツイベント (FIBA 3x3 ワールドツアーWeb サイト³⁾、JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE Web サイト⁴⁾ から引用)

表2 宇都宮市をホームタウンとして活動するプロスポーツチーム

クラブ名	概要	地域貢献活動
栃木SC	Jリーグに加盟するプロサッカークラブ	ゆめプロジェクトなど
リンク栃木プレックス	プロバスケットボールチーム	キッズモチベーションプロジェクトなど
宇都宮ブリッツェン	自転車ロードレースのプロチーム	自転車安全教室など

また、宇都宮市では誰もが、いつでも、いつまでも、生涯にわたりスポーツに親しめる社会を目指し、「ひとり1スポーツ」を推進している。現在、宇都宮市内には9つの総合型地域スポーツクラブが設立されている（表3）。表3は宇都宮市公式Webサイト⁵⁾をもとに作成している。総合型地域スポーツクラブとは、地域住民が自主的・主体的に運営を行うスポーツクラブであり、種目の多様性、世代や年齢の多様性、技術レベルの多様性を包含している。

表3 宇都宮市内にある9つの総合型地域スポーツクラブ

クラブ名	場所	活動種目
友遊いずみクラブ	泉が丘小学校体育館内	健康体操、子ども教室など39種目
スポーツかわち「Ship(シップ)」	古里中学校体育館内	陸上競技、バウンドテニスなど13種目
NPO横川スポーツクラブ	横川中学校体育館内	グランドゴルフ、卓球など12種目
いきいきエンジョイ清原	清原中学校体育館内	3B体操、柔道など13種目
ジョイスポしろやま	城山中学校体育館内	卓球、3B体操など7種目
豊郷元気！スポーツクラブ	豊郷中学校体育館内	弓道、スラックラインなど13種目
特定非営利活動法人クラブサンク	陽東小学校内	バドミントン、太極拳など20種目
ちゅんちゅんさわやかスポーツクラブ・雀宮	雀宮地区市民センター	バドミントン、健康マージャン8種目
みゆきスポーツクラブ「MIYUKI」	御幸小学校内	卓球、バドミントンなど10種目

次に、スポーツ施設と学校校庭開放事業実施市立施設の位置関係について分析した。宇都宮市の公式Webサイト⁵⁾に掲載されているスポーツ施設や学校校庭夜間開放事業を行っている場所をもとに、宇都宮市の地図上にそれらの場所をマークした。

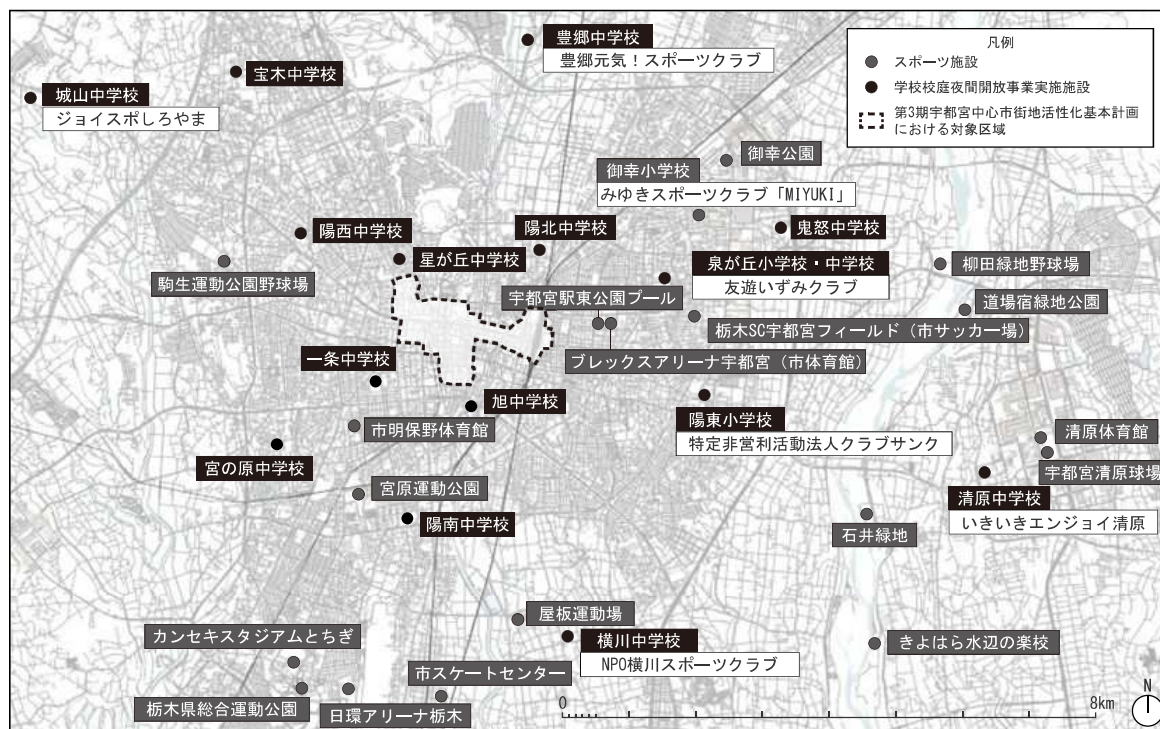


図3 スポーツ施設と学校校庭夜間開放事業実施施設の分布

調査より、位置関係を見ると、イベント時にはバンパ広場やオリオンスクエアが活用されている一方で、スポーツ施設やクラブ活動の拠点は中心市街地から遠く、まちなかは空白地点となっていることが明らかとなった。宇都宮市中心市街地においてスポーツの拠点が不足している状況である。

3.3 宇都宮市の健康づくり

宇都宮市では健康づくりの推進を行い、様々な取り組みが行われている。以下に取り組みの一部を示す。

(1) ウォーキングマップ

宇都宮市では、健康づくり推進員を中心に、各地域のウォーキングマップを作成している（図4）。図4にある中央・城東・峰地区のウォーキングマップではマップタイトルを歴史の薫る街中コースとして歴史をたどりながら歩くことのできるコースを作成している。



図4 ウォーキングマップ（宇都宮市公式 Web サイト⁶⁾ から引用）

(2) 健康ポイント事業

宇都宮市では、運動や検診の受診など、健康づくりに取り組むことで、ポイントが貯まり、貯まったポイントに応じてサービスや特典が受けられる「うつのみや健康ポイント」を実施している。表4はうつのみや健康ポイント Web サイト⁷⁾ をもとに作成している。

表4 うつのみや健康ポイントの概要

うつのみや健康ポイント	事業概要	健康づくり（運動・健診の受診等）に取り組むことでポイントが付与される。 対象は18歳以上の市民で、参加方法はスマートフォン用アプリまたは紙の活動記録票。
	プレゼント	QUOカード・図書カード・市有施設利用券と交換または寄附（プロスポーツへ寄附）
	ポイントの対象	1. 日常の運動 ・歩く、自転車に乗る（最大9ポイント/毎日）・1日の目標活動量の達成（3ポイント/毎日） ・1週間の目標活動量の達成（10ポイント/毎日） 2. 健康管理 ・体重の計測（5ポイント/毎週）・健康診断の受診（50ポイント/年） 3. 活動の成果 ・体重の適正化（10ポイント/毎月） 4. その他 ・事業参加ボーナス（10ポイント/年）・取組課題の達成（ポイント数・頻度ともに変動） ・イベント参加（ポイント数・頻度ともに変動）

このように宇都宮市では健康づくりの推進を重要視しているが、中心市街地における運動を行える拠点が不足しているという課題が明らかとなった。そこで、これらの課題を解決し、中心市街地における健康づくりを促進することは、まちなかの活性化に寄与できる可能性があると考えらる。

4. 施策事業の提案

これまでの分析結果より、健康づくりを中心とした2つの提案を行う。

4.1 まち歩きルートの設定

既存の健康づくり事業を踏まえ、まち歩きのルートを設定し、まちなかの全体計画を行った(図5)。まちあるきルートでは、公園や広場を巡り、最終的に拠点施設に向かう。コースは2つ設定し、リフレッシュコースは短い距離で、日々の運動不足が解消でき、アクティブコースでは、より多くのオープンスペースを訪れ、スポーツを楽しみながらまち歩きができる。また、歩行を促進するために、歩行エリアを整備し、各広場には飲食スタンドや健康遊具、菜園などを設置し、楽しみながら歩けるように工夫する。将来的にはまちかど広場と隣接する中央市民活動センターやバンバ広場に隣接する宇都宮市民プラザもまち歩きの立ち寄りスポットとして活用していく。

さらに、各オープンスペースにはスポーツ環境を整備し、アーバンスポーツやクランプ、卓球、ボルダリング、ストライダーなど、幅広い年齢層が楽しめる運動の機会を提供する。特に宇都宮ではジャパンカップの一環として子供向けのキックバイクのイベントなども開催され、盛り上がりを見せているため、日常的にスポーツが楽しめる機会があることは子育て世代にも魅力的であると考えられる。

また、健康ポイント事業とも連携し、歩行を奨励する取り組みも導入する。具体的には、まち歩きの拠点施設に健康ステーションを設置し、健康相談や健診、健康イベントを行い、ポイントが加算されるしくみである。

以上の提案により、まちなかにおけるスポーツ拠点不足を解消し、オープンスペースを活用して日常的な運動の機会を提供するとともに、楽しみながら街を歩いて健康を促進することができる。

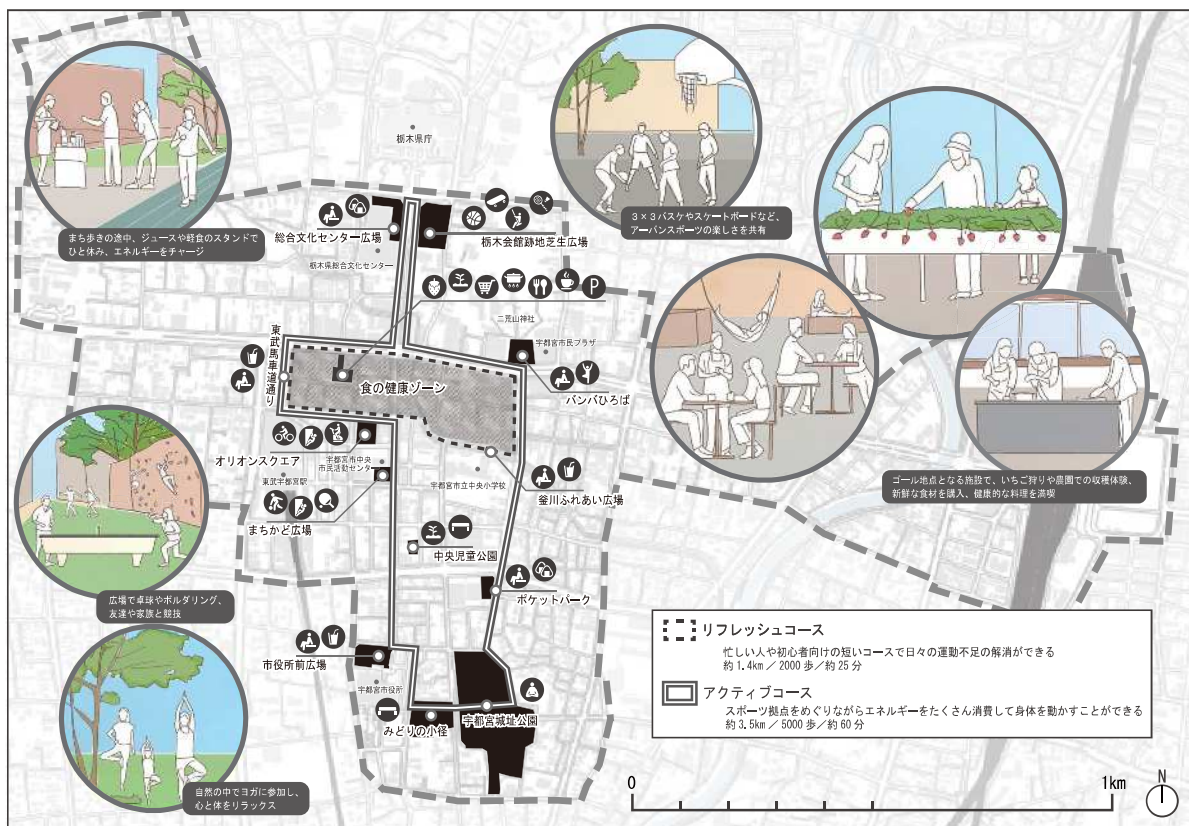


図5 全体計画

4.2 健康促進を図る食の拠点施設の提案

図5より、まち歩きで指定したルートに囲まれたエリアは、コロナの影響もあり夜型営業店舗の増加や、駐車場スペースが点在し、通行者は平日の夜や休日が多いなどの偏りが見られる。そこで、このエリアに食に焦点を当てた新たな活用方法を提案する。具体的には、大通りに面する駐車場スペース（図7）を対象敷地とし、「食の拠点施設」を形成する。この施設は、地下を駐車場として活用し、最上階には地域特産のいちご狩りや農園を設け、その他に直売所、クッキングスタジオ、ジムなどを配置して新たな食の体験を提供し、健康促進を図る。また、この施設に面した大通り以外の通りは朝と夕を除いて通行止めにし、施設の活動を道路に拡大し、まち歩きルートのゴール地点としてデザインする。同時に、発電床や廃熱の利用など環境への配慮を促進する。

将来的には周辺の建物も健康関連の施設として再活用され、訪れる層も変化し、15年後には健康づくりのための魅力的なまちなかとして活性化されることを目指す。



図6 食の拠点施設



図7 対象敷地現状写真

4.3 施策事業実施に当たって

まちなか健康プロジェクトは、中心市街地の活性化を促進し、市民の健康づくりに焦点を当てた新たな未来を構想したプロジェクトである。以下に、施策事業を実施する際の市民、事業者、行政の役割および施策事業に伴う効果と問題点をまとめる。

(1) 施策事業を実施する際の市民、事業者、宇都宮市の役割

- ・市民は、まち歩きルートを利用し、健康づくりと地域活性化に積極的に貢献する。
- ・事業者は、食の拠点施設の運営を担当し、地域特産物の販売やクッキングスタジオ提供などの様々なサービスを提供する。
- ・行政はプロジェクトの計画、調整、規制などを担当する。まちなか空間活用に関する施策を検討する。

(2) 施策事業に伴う効果

- ・市民はまち歩きルートや施設を利用することで、健康的なライフスタイルを実現できるとともに、地元の特産品を楽しむ機会が増え、地元への誇りを感じることができる。
- ・事業者は、新たなビジネスの機会が広がり、収益を上げ、経済的貢献が期待できる。
- ・行政の視点では、プレイスメイキングうつのみやや地域資源の最大活用を通じて、中心市街地の魅力が高まり、地域経済が活性化され、健康で楽しいまちづくりを実現できる。

(3) 施策事業遂行上の問題点

提案した施設の建設および運営に必要な財政の確保が必要である。また、プロジェクトの成功に向けて連携を強化するとともに、街路の安全性や道路通行止めなどの実施に伴う通行者への影響について検討し、交通の円滑な運行を確保する必要がある。環境への配慮が必要であり、施設の建設や運用において、適切な方法を採用し、持続可能なまちづくりを推進する必要がある。

【補注】

*1 プレイスメイキングうつのみやは、宇都宮市中心市街地において、まちなかの資源を活用しながら、プレイスメイキングにより中心市街地の再生をしていくプロジェクト。このまちならではのコンテンツを見出し、豊かで過ごしやすい街なかづくりを目指す。

【参考文献】

- 1) 宇都宮市：プレイス・ビジョン うつのみや,
https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/_res/projects/default_project/_page/001/027/134/bijon1-4-2.pdf
- 2) 宇都宮市：都心部まちづくりビジョン～LRTを基軸とした公共交通と一体となった都心部の更なる活性化に向けて～
https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/_res/projects/default_project/_page/001/028/807/tosinbu_matidukuri_vision.pdf
- 3) 「FIBA 3×3 World Tour Utsunomiya Opener 2023」,
<https://3x3exe.com/worldtour2023/news/>, (閲覧日：23/10/28)
- 4) 2023 JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE in UTSUNOMIYA,
<https://www.japancup.gr.jp/>, (閲覧日：23/10/28)
- 5) 宇都宮市：スポーツ施設,
<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/sports/shisetsu/index.html>,
(閲覧日：23/10/18)
- 6) 宇都宮市：ウォーキングマップ 市内の各地域を歩いてみませんか!,
<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/kenko/kenkodukuri/1004473.html>,
(閲覧日：23/10/18)
- 7) 宇都宮市：うつのみや健康ポイント,
<https://utsunomiya-point.com/>, (閲覧日：23/10/18)
- 8) 宇都宮市：第3期宇都宮市中心市街地活性化基本計画
<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machizukuri/chushin/1025350.html>,
(閲覧日/23/10/10)